

PRESS RELEASE

2024年2月1日

北海道大学・東北大学・東京大学・東京工業大学
名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学

国立大学法人8大学 情報系大学院が共同開催

「情報学 for all by all」

——女子も、男子も、多くの中高生に情報学の魅力を届ける！——

概要

国立大学法人8大学（北海道大学・東北大学・東京大学・東京工業大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学）の情報系研究科は連携し、2024年3月17日午後2時より、「女子も男子も、迷っているあなたにも、情報学を目指してほしいから！ 8大学同時共同開催 情報学 for all by all」（略称「情報学 for all by all」）をオンラインと8大学キャンパス対面のハイブリッド方式で開催します。

「情報学 for all by all」は情報学の裾野を広げ、多様性を実現するための取り組みの第一歩として、中学生、高校生を主な対象として、情報学の面白さや可能性、将来のキャリアパスなど「情報学の魅力」を発信することを目的としています。



8大学情報系研究科が同時共同開催で中高生に情報学の魅力を発信！

発表内容

2023年は生成AI元年と呼ばれるなど、ChatGPTをはじめとした生成AIの活用が驚くべきスピードで広がり、情報分野に多くの関心が集まる年となりました。またこの数年で、自宅で授業を受けたり仕事をしたりすること、また遠隔地とオンライン上で気軽にコミュニケーションをとることが当たり前になるなど、情報を活用した手段はいまや誰にとっても身近な社会インフラとなっています。

加えて2022年度からは高校で「情報Ⅰ」が必修科目となり、2025年には大学入学共通テスト科目に「情報」が追加されるなど、情報の知識はこれからの社会に欠かすことのできない素養の一つと考えられ、デジタル化推進の流れにおいては、高度な専門性を備えた情報人材の輩出が期待されるとともに、情報専門人材以外でも情報学の素養が求められるようになっていきます。

そのような社会情勢の中、残念ながら情報分野の大学や大学院では女子学生の比率が非常に低くジェンダーバランスが取れていないなど、ダイバーシティが不足しているのが現状です。

情報学を最大限に活用し、安全で安心でそして公平な社会を創り、社会課題を解決していくには、性別や国籍、住んでいる地域や関心のある社会課題が異なるなど、多様な立場の人々の意見や考えを「情報学」に取り入れていくことが重要です。

今回のイベントでは、情報の知識を携えこれからの社会を創っていく若い世代に加えて、進路選択で相談相手となる保護者世代や中高の教員の皆さんに、情報学の今と未来を伝えるプログラムを準備しています。特に、他の学問領域や社会課題解決などに情報学が役立つ姿が見えるように工夫をするとともに、大学院生や若手研究者からは情報学に関心を持ったきっかけや、学生・研究者の生活についてもお伝えします。

当日は日本各地、また海外からも気軽に参加していただけるよう、オンラインと8大学のキャンパス（全国8か所）のハイブリッド開催で実施します。イベントのプログラムや応募方法など詳しくは特設ウェブページ（<https://www.i.u-tokyo.ac.jp/events/joho-for-all2024>）をご覧ください。

※特設ページは2024年2月6日に公開しました。また随時情報を追加いたします。

※九州大学の対面会場は、九州大学工学部同窓会の支援を受けて開催します。